

認定書

国住指第 1524 号
令和 2 年 9 月 11 日

日鉄建材株式会社
代表取締役社長 中川 智章 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：2 時間（第一号）、1 時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP120FL-0215
2. 認定をした構造方法等の名称
軽量コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別 添)

1. 構造名

軽量コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
床 厚	155 以上(山上コンクリート厚 80 以上)
荷重と支持間隔の 関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支持間隔 2,400 以下の場合 自重を含めた全荷重 21.94kN/m² 以下 ・ 支持間隔 2,400～3,600 の場合 自重を含めた全荷重 (W) × 支持間隔 (L) の 2 乗=126.4kN 以下 (一般的な支持間隔と荷重を表-1 に示す)
支 持	単純支持又は連続支持

注) 全荷重=固定荷重+積載荷重

3. 構成材料

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
①デッキプレート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規 格 JIS G 3352 ・ 厚 さ 1.0、1.2、1.6 ・ 山高さ 75_{±1.5} ・ 働き幅 300_{+8,-2}、600_{+8,-2} ・ 種類記号 (1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする (1)SDP1T (厚さ 1.2、1.6 に限る) (2)SDP1TG (厚さ 1.2、1.6 に限る) (3)SDP2 (4)SDP2G (5)SDP3
②コンクリート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 種 類 軽量コンクリート ・ 呼び強度 18～45 ・ 厚 さ デッキプレート山上から 80 以上
③ひび割れ拡大防止用 鉄筋	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)溶接金網 <ul style="list-style-type: none"> ・ 規 格 JIS G 3551 ・ 種 類 1)～4)のうち、いずれか一仕様とする 1)WFP 2)WFC 3)WFR 4)WFI ・ 断面寸法 線径 6 以上

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
③ひび割れ拡大防止用鉄筋 (つづき)	<ul style="list-style-type: none">・間 隔 100 以下×100 以下・かぶり厚さ 床版上面から 30(2)鉄筋 (異形鉄筋)<ul style="list-style-type: none">・規 格 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする1) JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼)<ul style="list-style-type: none">・種 類 (イ)～(ニ)のうち、いずれか一仕様とする(イ)SD295(ロ)SD345(ハ)SD390(ニ)SD4902) JIS G 3117 (鉄筋コンクリート用再生棒鋼)<ul style="list-style-type: none">・種 類 (イ)、(ロ)のうち、いずれか一仕様とする(イ)SDR295(ロ)SDR345・断面寸法 D10 以上・間 隔 200 以下×200 以下・かぶり厚さ 床板上面から 30
④耐火補強筋	<ul style="list-style-type: none">・規 格 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする(1) JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼)(2) JIS G 3117 (鉄筋コンクリート用再生棒鋼)・種 類 (1)～(6)のうち、いずれか一仕様とする(1)SD295(2)SD345(3)SD390(4)SD490(5)SDR295(6)SDR345・断面寸法 D13 以上・間 隔 300 以下・かぶり厚さ デッキ下面から 40

2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
①はりと床版の接合部材	頭付きスタッド <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS B 1198 ・寸 法 径 16×110 以上 ・間 隔 300 以下
②はりとデッキプレートとの接合方法	(1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする (1)アークスポット溶接 (2)すみ肉溶接 (3)焼抜き栓溶接 (4)プラグ溶接 (5)打込み鋸
③スペーサー（ひび割れ拡大防止用鉄筋用）	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)鉄線 <ul style="list-style-type: none"> ・線 径 規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径以上 ・間 隔 1000 以下 (2)セメントモルタルブロック <ul style="list-style-type: none"> ・寸 法 規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 ・間 隔 1000 以下
④スペーサー（耐火補強筋用）	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)鉄線 <ul style="list-style-type: none"> ・線 径 規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径以上 ・間 隔 1000 以下 (2)セメントモルタルブロック <ul style="list-style-type: none"> ・寸 法 規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 ・間 隔 1000 以下

表-1 一般的な支持間隔と荷重

支持間隔 (mm)	自重を含めた全荷重 (kN/m ²)
2400 以下	21.94 以下
2500	20.22 以下
2600	18.69 以下
2700	17.33 以下
2800	16.12 以下
2900	15.02 以下
3000	14.04 以下
3100	13.15 以下
3200	12.34 以下
3300	11.60 以下
3400	10.93 以下
3500	10.31 以下
3600	9.75 以下

注) 支持間隔が表の中間の値の場合は $WL^2=126.4\text{kN}$ 以下であることを確認すること

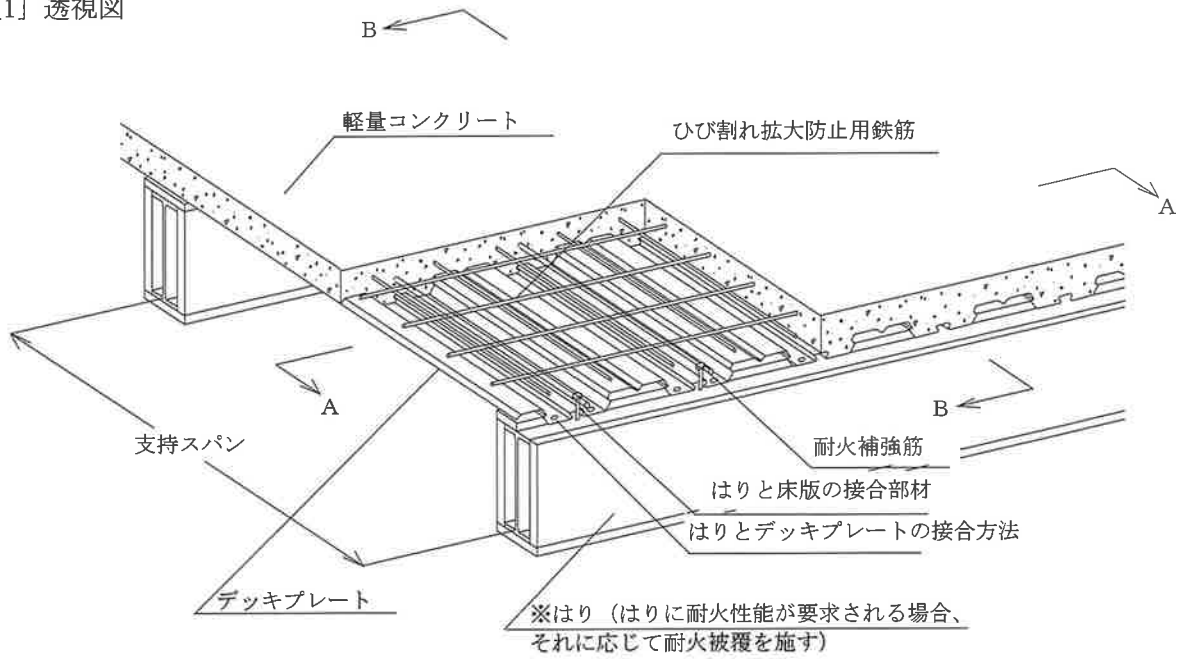
W : 自重を含めた全荷重 (kN/m²)

L : 支持間隔 (m)

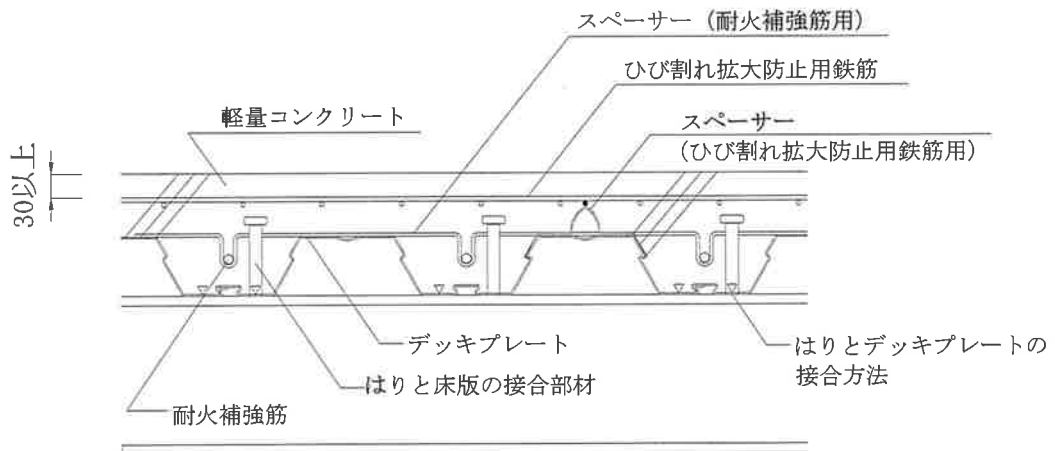
(寸法単位：mm)

4. 構造説明図

[1] 透視図



[2] A-A断面図

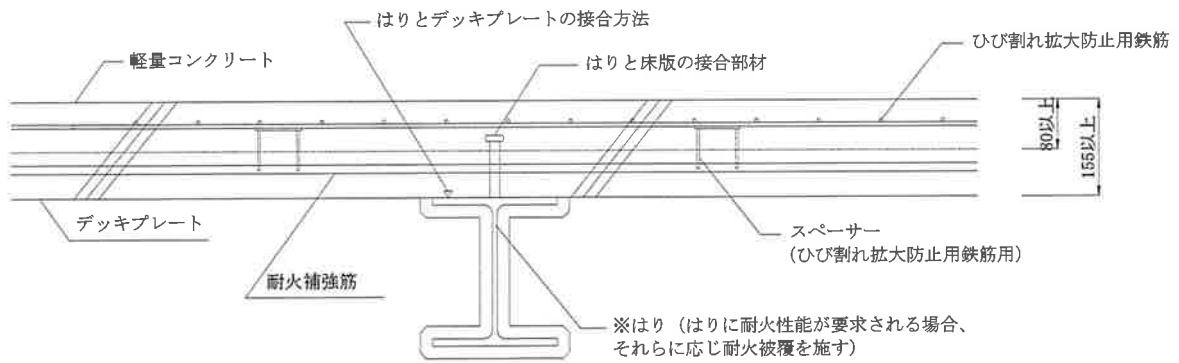


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

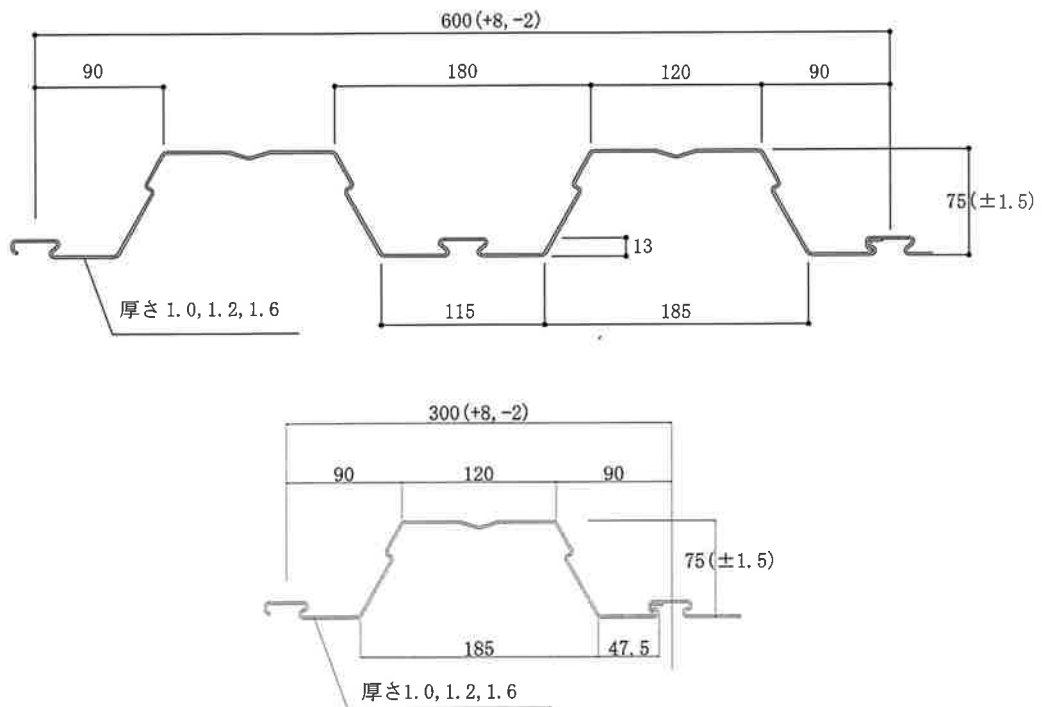
※本評価内容に含まない

(寸法単位: mm)

[3] B-B断面図



[4] デッキプレートの形状・寸法



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※本評価内容に含まない

5. 施工方法等

<施工図>

4. 構造説明図と同じ

<施工手順>

1) デッキプレートの敷込み

デッキプレートを墨出し線に合わせて梁に配置し、デッキプレートをはりにアークスポット溶接等で仮止めする。

2) 床スラブとはりとの接合

床スラブとはりとは、頭付きスタッドで結合する。

頭付きスタッドの接合方法は、平成 14 年国土交通省告示第 326 号の規定または「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」（日本建築学会）もしくは「各種合成構造設計指針・同解説」（日本建築学会）によるものとする。

3) 耐火補強筋

デッキプレートの谷部中央にスペーサーを介し、下面からのコンクリートかぶり厚さが 40mm となるよう鉄筋を配列する。耐火補強筋の定着長さは、梁端部から 150mm 以上とする。

4) ひび割れ拡大防止

コンクリートのひび割れ拡大防止のためスラブ上面よりかぶり厚さが 30mm となるように溶接金網または異形鉄筋を設置する。溶接金網または異形鉄筋の施工については、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」および「鉄筋コンクリート造配筋指針」に準拠する。

5) コンクリート打設

鉄筋が移動しないよう注意しながらコンクリートを不陸なく打設する。

コンクリートの施工については、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。

6) コンクリート仕上げ

コンクリートの表面に金ごて等の仕上げを施す。

7) コンクリート養生

施工後の養生は、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。

8) はりの耐火被覆

はりに所定の耐火性能が要求される場合には、それらに応じてはりが露出しないように耐火被覆を施す。